

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム花みずき

## 目標達成計画

作成日: 令和3年1月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	○身体拘束をしないケアの実践 医療機関から退院され、ホームに戻られた場合、医療機関からの引継ぎで、一部身体拘束を要することがある。又、日々の生活の中で不穏状況が継続される入居者様に対し、ご本人、周囲の入居者様の安全確保の為、やむなく身体拘束を実施せざるをえないケースがある。	身体拘束をしないケアを目標としているが、状況により必要な場合は、医療機関からの申し送りをスタッフ間で共有し、適切な対応を実践する。入居者様の身体拘束については、ご本人、お仲間の安心安全を優先に、行き過ぎた拘束にならないよう適宜対応を検討しながら拘束をしない工夫をしていく。	身体拘束を実施する場合は、ご家族への説明と了承をいただき、対象者のカンファレンスを開催し、週間毎の見直しを行い、出来るだけ早期に拘束が外れる事をスタッフ間の目標とし対応していく。又定例会を利用し、身体拘束のマニュアルの確認を行い、身体拘束に該当する11項目、3原則、3つのロック等、知識の再習得を目指していく。マニュアルをスタッフが見えるところに設置する。	2ヶ月
2	35	○災害対策 防災対策、避難訓練が、コロナ禍の中、度々の面会制限があった為、十分に対応できていない。また、地域との連携をとる機会もなかった。災害対策におけるスタッフの意識が薄くなっている。	年2回の避難訓練を、どういった形であれ、工夫をして実施していく。また、コロナ禍での地域との連携体制が、どのようにしたら作れるのか、地域住民の意見を傾聴していく。	避難訓練により、スタッフ1人1人が自覚をもって実施できるよう、避難における役割分担を明確にし、いつの訓練においてもスムーズに動けるようマニュアル化する。又夜勤帯においては、3棟が協力して連携が取れるよう行動手順を明確にし、スタッフが常に防災への意識化ができるよう取り組む。作成したマニュアルは、スタッフが常に見えるところに掲示し、意識を高めて行く。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。